

竹田たかし 市議会報告 NEWS

発行：竹田たかし後援会 〒581-0037 八尾市太田3-134 電話 072-949-6317

～ごあいさつ～

日頃は大変お世話になり誠に有難うございます。皆さまにおかれましては益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

今年は4月になりましても気温の差が激しく体調を崩されていないでしょうか？

入園・入学式も終わり大きなランドセルを背負い通学している小さな子どもたちを見ているとしっかりと子どもたちの未来の為に一生懸命頑張って行かないと…と心を新たにしております。

本年度の3月定例会が終了し、今回は会派を代表して代表質問をさせていただきました。

これからも皆さまのご期待に添えるよう一つ一つ一生懸命頑張って参ります。

引き続きご支援の程宜しくお願い申し上げます。



八尾市議会議員 竹田 たかし

平成22年度3月議会で 新世やおを代表し 代表質問をしました



市長のマニフェストについて

Q.マニフェストはこの3年間で何%守れたか？現実に実現不可能となったものがあればその内容と理由は？

A.マニフェストの達成状況は達成出来ているものが約4割、ほぼ達成が3割、十分新捗していないものが3割、未達成のものには21年度に着手しているものや22年度に取り組むものもあり、着実に前進していきます。実現不可能になったものは元八尾南高校におけるスポーツグラウンド整備等計画期間中に達成出来ないものも一部ありますが達成度の低いものも着実に前進させていきます。

行革の取り組みについて

Q.市長は行財政改革アクションプログラムの取り組みを「6割近く終了した」と報告しているが、職員アンケートでは約53%の職員が行革の効果は上がっていないと答えている。多くの職員が達成感を感じていないが市長の見解は？

A.「行革の効果はあがっていない」と感じていると答えておりますが一方では、職員が日常業務の改善を通じて確実に意識がかわりつつあると実感し今後も小さな創意工夫の積み重ねが大きな改革につながり結果、職員が行革の達成感を得られるよう取り組んでいきます。

予算編成について

Q.がんばって経費を減らせば次年度に予算が増える「インセンティブ予算制度」を導入していますが、その結果22年度はどのような予算増額の措置をとられるのか？具体的な事例は？

A.21年度中に制度設計を計り、予算の執行における創意工夫を生み出した効果額について22年度において評価等を行い、23年度予算に追加配分するよう検討します。

タウンミーティングについて

Q.市長は各地域2回タウンミーティングを開催され、どのようなメリットを見出されたのか？タウンミーティングでの意見で22年度に反映させた事業の具体的な内容は？

A.市民の皆さまと直接意見交換を行なうことでまちづくりの課題や、日頃取り組んでおられる活動などを直接聞く事が出来、大きな成果があったと考えています。ご意見の対応状況と今後の方向性についてホームページで公開しています。予算編成はタウンミーティングで出されたご意見も踏まえた形での予算にはなっていますが個々の意見の予算への反映やいずれかの地域の事情を反映した予算にはなっていません。

コミュニティ推進スタッフについて

Q.人件費、コストの点で問題があると考えますがコーディネート役として機能しているのか？

A.推進スタッフが地域で得た情報をタイムリーに把握し定期的に意見交換を行ない、地域でのまちづくりに関する研修会の開催に取り組んでいます。地域の方からは配置基準についてご意見を頂いていますが、地域間で格差が生じないよう体制整備を検討していきます。

出張所のあり方について

Q.地域からはどのような意見があり、市としてどのようなビジョンを持っているのか？

A.住民票等を発行する窓口業務だけでなく、地域への市政情報の提供や各種団体等との連絡調整などのまちづくり支援業務を担っております。今後地域のまちづくり活動を推進していくための拠点を確保していく必要があると考えます。

高齢者の生きがい対策について

Q.高齢者のための「つどいの広場」の設置を提案しますが高齢者の活動の場の確保について見解を伺いたい。

A.商店街の空き店舗等を利用した「つどいの広場」は身近な商店街で買い物をするだけでなく気軽に立ち寄り様々な情報交換を行なうことで仲間作りが可能となるなどのメリットがあると認識しており実現に努めていきます。

災害対策について

Q.自主防災組織を育成するとしてますが現在の組織率と運営上の課題について伺いたい。また災害発生時の迅速な救助・搬送を可能とするために住居表示地域の拡大が必要と考えますが現在の取

り組み状況を伺いたい。

A.現在町会数全体の7割にあたる539町会概ね65,000世帯で結成されていますが活動に関する関心が低調、地域リーダーが少ないこと、活動に必要な資金の不足が運営上の課題です。又「同じ町名で住居表示区域と地番区域が混在している町」の解消に取り組んだところで、災害時に必要な関係機関に速やかに提供しております。今後も地域のご意向なども踏まえ取り組んで参ります。

交通行政について

Q.コミュニティバス廃止後、いまだに新しい交通体系が示されていないが、交通体系の研究はどこまで進んでいるのか？

A.コミュニティバスの廃止以降、効果的な交通体系の構築を目指し取り組み、現在竹淵地区において地域の交通手段実現に向けた勉強会が進められているところです。今後も引き続き有効的なネットワークで結ばれた交通体系の構築を進めていきます。

教育について

Q.八尾市の余裕教室の有効活用はどの様になっているのか？保育所の待機児童のために余裕教室の活用を提案しますがご見解を伺いたい。

A.地域の方々も利用して頂ける多目的室や放課後児童室及び防災備蓄倉庫として活用しています。保育所の待機児童解消のための活用としては、利用時間・形態の相違があるなど環境整備に課題があると認識しています。

ネットいじめについて

Q.携帯電話、インターネットなどを使った学校裏サイト、ネットいじめについて八尾市の現状はどのような状況なのか？

A.「ネットいじめ」は平成19年度に5件、平成20年度3件あり個人を中傷する内容の書き込みでした。学校においては担任が中心となり信頼関係を築き、子どもの様子の把握に努めています。教育委員会においては大阪府等の相談機関も紹介しながら多方面から支援できる体制作りにも努め、他者の人権を大切に子どもを育てるためモラル教育等を推進したいと考えています。

図書館行政について

Q.図書館から遠い地域の市民へのサービス向上のため出張所での貸出しを提案しますが出張所のあり方を検討する中で何か検討したことはあるのか？

A.図書館から遠い市民へのサービス向上の為、移動図書館を市内24箇所巡回していますが平成20年度の実績値は貸出し点数は前年度比7.8%減少、貸出人数は前年度比7.4%減少となっております。出張所での貸出しサービスについては団体貸出の手法を用いるなど関係部局と検討したいと考えています。

少子化対策について

Q.子育て世代の転入促進には働きやすい環境整備が不可欠だと考えるが、八尾市が「選ばれる自治体」となるための市長の戦略はどのようなのか？

A.市民意識調査の結果を真摯に受け止め本市の子どもたち一人ひとりが「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の知・徳・体の調和のとれた「生きる力」を身につける事が出来るよう、よりよい教育環境の整備に努めていきます。

市立病院について

Q.累積欠損金が120億円を超える厳しい経営状況の原因はどこにあると考えているのか？

A.累積欠損金の主たる部分は当初の過大な設備投資による多額の減価償却費などの現金の支出の供

わない費用に加えて、診療報酬のマイナス改定や医師不足によって収益の伸びが減速したことによるものと考えます。

産業政策について

Q.「ものづくりのまち八尾」として認知度と魅力度を高めるため、労働者が生き生きと働ける環境づくりのサポートが必要だと考えるが八尾市の取組みはどのようなのか？

A.八尾市中小企業サポートセンターで中小企業の経営革新や技術開発の支援、新事業展開、人材育成の支援などを行い、企業の安定と成長に繋げチャレンジ的な組織風土、若者が定着し人が育つ魅力的な企業文化づくりを促進しています。

防犯対策について

Q.八尾市は犯罪の発生率が大阪府下でもトップクラスで防犯対策をより強化するための具体的な方法は？

A.街頭犯罪の発生数の多い地域で地域、警察、市及び照明の専門家が連携し地域の実態を調査する防犯診断に取り組むとともに市民一人ひとりの防犯意識が向上するような啓発活動に取り組んでいきます。

広域行政について

Q.柏原市とは数年来、広域連携の強化に向けた共同研究を行っているが、研究成果はいかなるものか？

A.これまで「水道事業における災害時の相互応援に関する基本協定」を締結するなど国の動向についての意見交換や情報交換をしてきました。また、ともにまちづくりを進めることで信頼関係を構築し両市にふさわしい関係を見極めたいと考えます。

国民健康保険について

Q.国民皆保険制度を持続可能な制度とするためどのような方策をとるのか？また八尾市未収債権の約半分が国保会計で債権回収状況と22年度の見込みは？

A.国民健康保険は市町村の負担増加を招かないよう医療保険の一本化への道筋を明確化するよう、又国庫負担金割合の引き上げについても引き続き国に強く要望してまいります。債権回収業務は平成21年11月末から「納付案内コールセンター」を設置し未納者に自主納付の呼びかけを実施し引き続き積極的に収納対策に取り組むたいと考えています。

「みらいばし」の渡り初めを行いました。



登下校時に一部車道をおるいていた
子どもたちも安心して
利用できる橋が完成しました。

